

令和 7 年 7 月 14 日

南箕輪村議会議長 様

提出者名 西森一博

議員研修・議員視察結果報告書

研修名または視察テーマ	町村議会議員研修会
研修・視察実施場所	松本市 キイッセイ文化ホール大ホール
研修・視察の期間	令和 7 年 7 月 14 日
研修・視察の成果等	<p>早稲田大学デモクラシー創造研究所の中村健氏（一般社団法人 Maniken 代表理事）による講演「地方創生のカギは議会にある」では、地方創生とは“国からの自立”であると語られていました。そのためには、地方自治体が自ら立法（条例）、行政、財政について考え、主体的に創り上げていくことが求められます。</p> <p>しかし現実には、自治体で働くとする若者が減少し、将来の行政を支える人材が不足していくことが懸念されています。また、議員のなり手不足も深刻な課題です。議会では DX 化や情報公開は進んでいるものの、肝心の「議論」が乏しく、議員間討論や政策論争が十分に行われていないと指摘されていました。こうした討論の不活性さが、住民の政治への関心を低下させている一因ともなっています。</p> <p>中村氏は、現代のように多様で複雑な社会においては明確な「正解」を出すことが難しく、だからこそ議論が必要だと訴えていました。</p> <p>しかし、私は「議論」の重要性について、やや異なる視点を持っていました。</p> <p>確かに現在の議会は平穏で、議論は少ない状況です。討論自体が重要であることは理解していますが、今後 AI が中心となる社会において、従来のような「人間同士の討論」がどれほど意味を持つのか、私は疑問に感じています。</p> <p>これは、日本技術ジャーナリスト会議会長・室山</p>

哲也氏の講演「生成AIの衝撃。人工知能時代をどう生きるか」にも通じる話です。AIの進化は、人間の想像をはるかに超えるスピードで進んでいます。いまやAIと自然に会話できるだけでなく、AI同士が議論することすら可能になっています。

このような時代において、「議論の過程」そのものが、必ずしも重要とは言えないのではないかと思うのです。「答えのない時代だからこそ議論が必要」とも言われますが、AIが高度に進化した今、その前提自体が揺らいでいるように感じます。

AIと人間の違いとして、「人間は感情や経験をもとに情報を形成する」とよく言われます。確かに、議員として感情は必要な側面もありますが、複雑でスピードが求められる現代社会では、感情が判断の妨げになることもあると考えます。

その意味でも、AIを活用して、最短かつ最適な意思決定を支援することの必要性は高いと思います。ただし、すべてをAIに委ねてしまえば、人間らしさや社会の温かみは失われてしまいます。だからこそ、最終的な判断には人間の「感情」や「倫理観」が関与すべきです。AIを道具として活用しながらも、人間が決定の最終責任を担うバランスこそ、これから社会に必要だと私は考えます。

※研修・視察終了後、議長または委員長が定めた期日までに提出すること。